

矢倉 菜々 さん

小学校教育課程 国語教育コース
大阪府（中学校国語教諭）内定
大阪府立高石高等学校出身



■ 学校種を目指したきっかけ

中学校の国語を志望したのは、私自身の経験から「言葉で伝えないと伝わらないことがたくさんある」と強く感じたからです。

私は、友人関係や勉強がうまくいかない時、気持ちをうまく言葉にできず、態度に出してしまうことがあります。しかし、恩師との出会いを通して、言葉で思いを伝えることの大切さを学びました。

この経験から、言葉を大切にする国語という教科を通して、これから出会う子どもたちにも「自分の気持ちを言葉で伝える大切さ」を伝えたいと思うようになりました。

■ 大学での学び・教育実習での経験

教育実習では、授業をよりよくしていくことの大切さを実感しました。

中学校では、全6時間の授業を4クラスで担当し、終わるたびに振り返って、発問や時間配分などを改善しました。

思うようにいかないことも多かったのですが、生徒たちが楽しそうに授業を受け、しっかり考えてくれている姿を見ると、「次も頑張ろう」と自然と前向きな気持ちになれました。

■ 採用試験でのアピールポイント

私は、責任感をアピールポイントにしました。

中学・高校と剣道を続け、主将として部をまとめる経験を通して、自分の行動に責任を持つことの大切さを学びました。

仲間の意見を聞きながら部全体をまとめる中で、周りを思いやる力が身についたと感じています。

■ 教職センターでのサポート

教職センターでは、面接や模擬授業の講座以外に、国語の2次試験対策講座を受けました。面接・模擬授業の講座では、実際に面接官をされていた先生方が個別に指導をしてくださり、質問や相談もしやすく、自信を持って教員採用試験の本番に挑めました。国語の対策講座では、大阪府だけでなく、他の自治体の過去問や敬語の指針などを学びました。

■ 目指す教師像

私は、誰よりもその子らしさを認め、尊重し良さを伸ばせる教員になりたいと考えています。中学生の時、人権学習の一環として部落の問題を学習したこと、人権やお互いを認め合うことは大切だと学びました。教育実習でさまざまな子どもたちに関わったことで、一人ひとりを大切にし尊重できる教員になりたいと強く思うようになりました。

■ 後輩へのメッセージ

私は、教員採用試験の本番まで、多くの仲間に支えられました。

ゼミや同じ国語コースの友人とお互いに教えあったり、模擬授業を見せあったりする中で、一人ではできないことも最後までやり切ることができました。

また、仲間をライバルとして意識することで、挫けそうになっても前を向いて頑張ることができました。

仲間の存在があったからこそ、最後まで諦めずに挑み続けることができたと感じています。

これから教員採用試験を目指すみなさんも仲間を大切にして欲しいと思います。



互いに励まし合いながら頑張ってきました。

これからも切磋琢磨し、成長していきたいと思います！